

百年の時間<sup>とき</sup>を経て、  
今、蘇る世界の名器の音色を

お楽しみください



新潟県立村松高等学校

入場無料

# ベーゼンドルファー ピアノ修復記念演奏会

平成26年10月11日(土) ■開場 午後2時 ■開演 午後2時30分

会場 さくらんど会館 五泉市村松乙118-2

出演 ピアノ 田中幸治 佐藤峰雄 曲目 ショパン前奏曲集から シューマン「森の情景」ブラームス ハンガリー舞曲 他  
合唱 村松合唱団 曲目 ふるさと SING 金色の太陽がもえる朝に 他

■主催 新潟県立村松高等学校 新潟県立村松高等学校同窓会 ■後援 五泉市  
問い合わせ 事務局 熊倉洋子 電話0250-58-6362



# ピアノ披露演奏会 プログラム

## 1・ピアノ独奏・・・・・・・・・・佐藤 峰雄

前奏曲集 Op. 28より・・・・・・・・・・ショパン

No. 11 ロ長調 ビバーチェ

No. 15 変二長調 ソステヌート（雨だれ）

No. 23 ヘ長調 モデラート

前奏曲集 Op. 32より・・・・・・・・・・ラフマニノフ

No. 5 ト長調 モデラート

No. 12 嬰ト短調 アレグロ

## 2・ピアノ独奏・・・・・・・・・・田中 幸治

「森の情景」 Op. 82 全曲・・・・・・・・・・シューマン

森への入り口

獲物を狙う狩人

孤独な花

呪われた場所

ここちよい風景

宿にて

予言の鳥

狩の歌

別れ

(10分間休憩)

## 3・ピアノ連弾・・・・・・・・・・P. 田中 幸治 S. 佐藤 峰雄

「こどもの舞踏会」 Op. 130 全曲・・・・・・・・・・シューマン

1. ポロネーズ

2. ワルツ

3. メヌエット

4. エコセーズ

5. フランス風に

6. 輪舞

P. 佐藤 峰雄 S. 田中 幸治

「ハンガリー舞曲」第4集より・・・・・・・・・・ブラームス

19番 アレグレット

20番 ポコ アレグレット

21番 ビバーチェ



# ピアノ演奏者 プロフィール



田中 幸治

広島市出身。東京芸術大学大学院修士課程修了。アムステルダム・スヴェーリンク音楽院演奏家コースを修了しオランダ国家演奏家資格を得る。1998年文部省（現・文部科学省）在外研究員として再度アムステルダムで研鑽を積む。東京、広島、新潟、アムステルダムでのソロリサイタル開催、第70回日演連推薦新人演奏会にて広島交響楽団と共演、新潟交響楽団、広島アカデミー合奏団、ベルリン弦楽四重奏団との共演、その他、室内楽、伴奏など幅広い演奏活動を繰り広げる。最近では「大人のためのピアノ講座」、ピアノ・コンクールの審査など教育活動にも力を注ぐ。現在、新潟大学教育学部芸術環境創造課程・音楽表現コース准教授。



佐藤 峰雄

昭和25年村松高等学校第2回生として卒業、新潟大学芸能学科音楽科に進学。卒業後、五泉中学校・巻高等学校の教諭を経て新潟大学に迎えられる。大学では鍵盤楽器の他音楽史・音楽学・音楽教育学等の講座を担当。また昭和47年東京都文化会館でのソロリサイタルはじめ多くのリサイタルをスカララッティ研究の一環として開催。クーブランの「クラヴサン奏法」や「ピアノ入門書再考」など多数の著・訳書を出版。学会での論文発表も多く、社会的には全日本ピアノ指導者協会・日本ピアノ教育連盟の役員・審査員として全国を巡回。現在も「ピアノ音楽教育セミナー」を主宰。優れた連弾音楽の紹介と普及に努めている。昨年瑞宝中綬章を受章。現在、新潟大学名誉教授。

## 3つの山を越えたピアノ

ベーゼンドルファー社は、1828年（文政11年）オーストリア・ウィーンに、イグナーツ・ベーゼンドルファーによって創業された会社である。

ピアノは、フランツ・リストの激しい演奏に耐え忍んだことで、多くのピアニストや作曲家の支持を得た古い歴史のあるピアノである。

このピアノの第1の山は、昭和4年に県下で3台目のピアノとして、町が3,800円で購入したことである。当時の村松町の予算規模は80,864円で、その4.7%に当たる額である。

第2の山は、昭和21年5月の村松大火の際、当時の高等女学校の吉井晴夫先生と大塚勇先生と通り掛かった復員兵らしい人の3人で、校舎が燃え始めた火の粉をかいくぐって校庭の真ん中まで持ち出し、火の海から逃れることができたことである。

第3の山は、今回、850人からなる同窓生の寄附で修復がなされ、この度の記念演奏会が開催できたことである。

長い歴史を刻むことは、まさに苦難に耐えて山を越えるが如しである。 同窓会長 荒木 快英

故郷

高野辰之 作詞

岡野貞一 作曲

一

うきぎおいし かの山  
こぶなつりし かの川  
ゆめはいまも めぐりて  
わすれがたき ふるさと

二

いかにいます ちちはは  
つつがなしや ともがき  
あめにかぜに つけても  
おもいはずる ふるさと

三

こころざしを はたして  
いつのひにか かえらん  
やまはあおき ふるさと  
みずはきよき ふるさと  
みずはきよき ふるさと

村松高等学校校歌

相馬御風 作詞

中山晋平 作曲

一

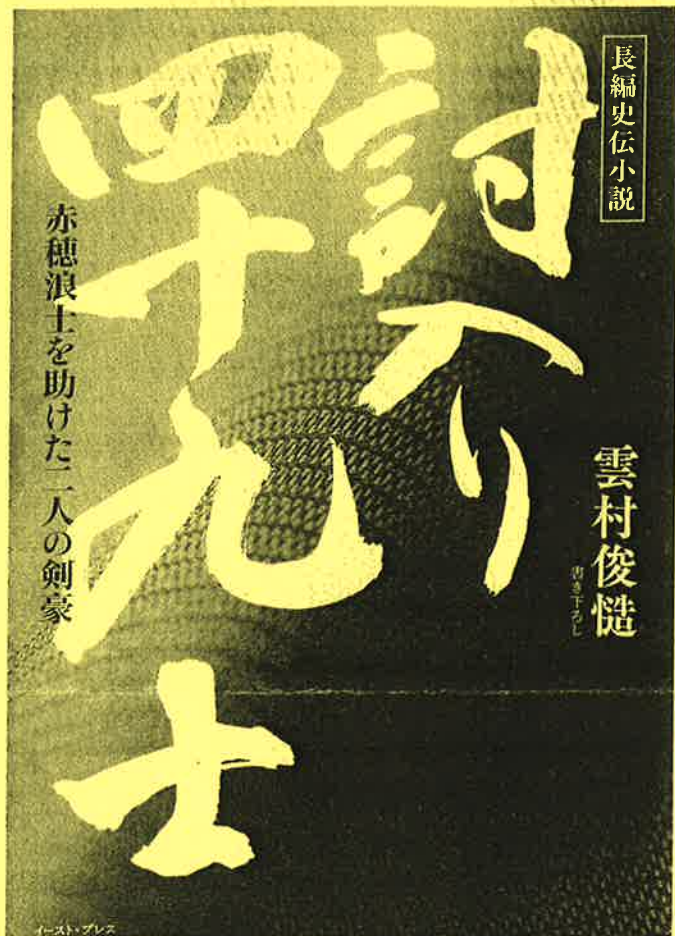
普く照らす天つ日の  
光を浴びて年々に  
伸びてしやまぬ若松の  
ときわの志操いや堅き  
学徒われらの在るところ  
明朗の和気みなぎれり

二

見よ質実な清純に  
進取の生氣湧き溢れ  
文化の花の咲くところ  
希望は常に輝ける  
道にわれらを進ましむ  
努めなんいざもろともに

「討入り四十九士」を語る

講師 雲村俊慥氏



三百十余年を経て、初めて明かされる『忠臣蔵』の真実！

吉良邸襲撃には  
村松藩二人の助っ人がいた！

越後村松藩の史料に深い謎が記されている。  
「同藩の剣豪だった野口正国と鳥羽逸平の二人が、吉良邸討入りの際、赤穂浪士たちの助太刀をした」というのである。これでは四十七士ではなく四十九士ではないか。それも出所の異なる三冊の史料に同じ記述がなされているのは無視できない。  
雲村氏は今も健在な子孫を訪ね、寺や墓を巡り、遺品を確かめ、整合性を欠く部分は許容されるフィクションで補いながら、史伝小説に仕上げていった。  
その結果、全く新しい『忠臣蔵』が浮かび上がってきた——。

○とき 2014年11月8日(土)

開場 午後6時00分 開演 午後6時30分

○ところ 五泉市立図書館 3F ホール

主催 / 五泉市文化協会

後援 / 五泉市・五泉市教育委員会

問合せ / TEL 42-2457 五十嵐吉平商店

入場  
無料

